

医療ニーズの変化と医師の働き方改革が 将来の病院経営に及ぼす影響とは

昨年4月から「医師の働き方改革」が始まり、12月には厚生労働省が新たな地域医療構想に関する検討会のとりまとめを公表した。医療機関は国の規制や新方針に従って、組織や体制を見直ししながら、生き残りを図って行かなければならない。超高齢社会の到来による高齢患者の増加と医師不足という状況の中、今後、病院にはどのような経営が求められるのだろうか。3月26日の第86回「日本の医療の未来を考える会」では、国際医療福祉大学大学院の高橋泰教授に、医師の働き方改革を経た今後の病院経営の他、2040年を見据えた新地域医療構想についての動向と、今後、医療機関に求められる視点等について講演して頂いた。



高橋 泰氏
国際医療福祉大学大学院 医療福祉経営専攻 医療経営管理分野 教授

挨拶



原田 義昭氏 「日本の医療の未来を考える会」最高顧問(元環境大臣、弁護士)

国会では少数与党の政治状況の中、予算委員会が開かれていますが、予算の年度内成立に向け、どうか与野党の政治家に知恵を絞って頂きたい。世界では、トランプ米大統領がウクライナの戦争の収束に動いています。彼の言動に疑問を感じる事も有りますが、日本の政治家にも結果を出す為に多少は無理な事をする位の気概を見せて頂きたいと思います。



三ッ林 裕巳氏 「日本の医療の未来を考える会」最高顧問(元内閣府副大臣、医師)

私の地元でも疲弊している医療機関が数多く有り、医療資材等の物価高騰に診療報酬の引き上げが追いついていない。詳しくはホームページをご覧ください。続きを読むには購読が必要です。診療に関する関係者も多く、医療崩壊寸前の状況が言われて差し支えありません。今後皆様

